

平成30年度業務実績評価結果（案）（項目別整理表）

資料3(別冊)

「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組

< I - 第1 教育に関する項目 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
21101	アドミッションポリシーの明確化(学部)	-	-	アドミッションポリシーや入試に関する情報を様々な方法を駆使し、高校生、高等学校などに向けて積極的に発信していることは評価できる。平成29年度から開始したSNSを活用した情報発信については、LINE新規登録者数の増加に努め、平成29年度の677名が平成30年度の1032名に増加したことは高く評価されるが、LINEでのアンケート回答率が14.0%と低調であるため、これを促すための努力を期待したい。		○	
21102	適切な選抜の実施(学部)	-	-	地域推薦入試制度の目的の一つが、三重県の保健医療福祉への貢献にあることを明確にし、三重県内の地域からの入学生を増やすため、推薦入試方法を次々にうちだしたことは、高く評価される。今後さらに受験生にアドミッションポリシーやそれに伴う多くの入試方法が正しく理解されやすいように工夫していただきたい。	○	○	
21103	高等学校との連携(学部)	-	-	高校との連携については、計画的で幅広い丁寧な取り組みをおこなっており、そのことが地域の高校に定着してきていると感じ、高く評価できることである。優秀な人材を確保するため、県内高校との連携をさらに深めて頂きたい。文部科学省による大学教育再生加速プログラム*の補助を受けて「高大接続事業」を進め今年度、これまで5年間の取組状況をまとめた報告書を作成し、全国の大学、高等学校等に配布した。この積極的な姿勢は、高く評価される。文部科学省の大学教育再生加速プログラムの補助が終了した後も、今後に向けさらに前向きに前進していただきたい。	○	○	
21104	アドミッションポリシーの明確化(研究科)	-	-	入学生獲得に向けて、地域に合ったコースを積極的に増やし、努力がみられる。また「一般入試」、「機関長推薦入試」、「学内入試」とも、年2回(一次・2次)実施し、修士論文コースは13分野、臨地教育者コースは9分野、専門看護師コースは2分野にわたっていることや「臨地」という言葉の意味についてなど、法人から全体について詳細に説明がなされたことについても高く評価される。これらのコースを地域の受験対象者に向けてどのように広報していくかを今後さらに検討していただきたい。	○	○	
21105	適切な選抜の実施(研究科)	-	-	21104とも関係するが、「社会人推薦入試」を「機関長推薦入試」に名称変更したことは、今後の末長い発展を考える時、適切な判断であった。なお、公立の看護大学の中には、「社会人推薦入試」を長年実施し、豊かな経験を持っている大学も存在する。公立大学協会看護・保健医療部会などを通して調査・学習していただきたい。様々な選抜方法が考えられている中、ぜひ学内推薦入試などを含め、キャリアアップを促すために、本人および勤務先の上司にも広く広報していただきたい。		○	
21106	教育課程・教育方法・内容の充実(学部)	-	-	評価方法もふくめ、教育内容の充実に力を入れていることが外からもよくわかり、評価できる。ルーブリック[評価]について、評価指標(学習活動に応じた具体的な到達目標)と、評価指標に即した評価基準(レベル)を記載した配点表を提示し、ルーブリックを用いた成績評価方法のことを指すという適切な説明があった。ルーブリック評価を始めてからの変化を学生がどのように感じ、評価しているかなど総合的な評価を今後期待する。「地域包括ケアシステム」の内容を取り入れた実習の検討をはじめなど、本学に合った実習を取り入れ始めていること高く評価できる。一部の実習で始めているが、さらに他の領域にも積極的に広げていけるような取り組みを期待する。また特別講義「三重を知らう」により、三重県の魅力発信に取り組んでいるのは、特に評価できる。1年生のみの対象とせず回数もふやして全学年の学生を対象とされることを望む。学生に三重の良さをさらに知ってもらい県内就職率の向上に繋がることを期待したい。	○	○	
21107	公正な成績評価の実施(学部)	-	-				

21108	教育課程・教育方法・内容の充実(研究科)	-	-				
21109	公正な成績評価の実施(研究科)	-	-	法人としても、本制度については、運営を始めたばかりであり、長期的に検証しながら運用していくことを考えておられる。学位論文の主査の配置については、医療・看護系大学においても複数の考え方が存在していることを認識し、質の向上につながるよう、慎重に検証しながら実施していただきたい。		○	
21201	授業の点検・評価	-	-	教育内容の質向上のために、実践している内容は重要と考えられる。今後もぜひ目的に合った評価方法を引き続き検討し続けていただきたい。 「学生による授業評価」を電子メールのみで行うことについて、現在、回収率6割であるが、今後どの程度の回収率を目指し、そのために現在の方法が適切で、十分かどうかの評価も行っていただきたい。 「教員相互による授業点検・評価」をこのようにしっかりと、長期間にわたって行い、成果を挙げている大学は、決して数多くなく、高く評価される。見学した助手10名のうちアンケートに回答したものは6名という回答率から今後の制度実施のあり方を検討するなど、今後も油断せず、自己点検評価をしっかりと行いながら、着実に実施していただきたい。		○	
21202	研修会等の開催	-	-	教員の教育能力開発(development)のための、大学あるいは学部単位の(faculty)研修であるFDを、今後ともしっかりと実践していただきたい。FD活動は大学にとって重要と考えるが、年4回という開催数についての検討、評価を今後行っていただきたい。 またアンケートの回収数(回収率)について明らかになっていない。FDに全く出席していない教職員の有無などの把握もして、さらに有効なFDを組織全体で進めていただきたい。			○
21301	学習支援	-	-	様々な学習環境の整備の実施や国家試験の支援策として学生の学習状況に合わせた指導を行うなど、充実した取組は、評価できる。学習環境の整備について、学生の利用率や学生の反応などについて今回は記載されていないが、状況を見ながら十分に評価・検討して今後の環境整備に活かしていただきたい。 国試対策について、看護師、助産師については合格率に繋がっているが、保健師については30年度の合格率が全国平均に届かなかったため、今後に向けてとくに専門領域の教員のさらなる工夫を期待したい。			○
21302	生活支援	-	-	健康相談制度はかなり充実していると評価できる。引き続き継続できるような対応が望まれる。 本学の学生のボランティア活動に対する支援は、実績から非常に多彩多様な活動への参加を支援しており、高く評価される。 毎年秋に開かれる全国公立大学学生大会(平成30年10月)に教員1名が参加したことについて、その結果が次年度の具体的な取り組みにどのように生かされていくのか期待をするほか、教員だけではなく、学生自身が参加すれば受ける刺激は大きいと思われるため、その点についても期待したい。		○	
21303	就職支援	-	-	さまざまな就職支援活動を行い、学生のアンケート結果からも積極的な取組は評価できる。県内医療機関との連携も深めて、県内就職者を増やす努力は評価できるが、一方、県内就職率は昨年比低下しており、原因の深堀りと新たな支援活動も検討していただきたい。さらに学生が求める医療機関の情報や学生の希望、学生の傾向を伝えるなどして、学生と医療機関とのマッチングがうまくいくような多くの工夫を期待するほか、21106で言及されている「三重県の魅力」についての検討が深まれば、県内就職率も安定的に高まるであろう。 「ようこそ先輩」への出席は、卒業生とつながりや同窓会活動へとつながっていくことにもなると考えられるので今後4年生の出席をふやす工夫を期待する。			○

計 14項目

4項目

9項目

3項目

< I - 第2 研究に関する項目 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における 重点的な取組及び特 筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人 評価	委員会 評価			重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項等
22101	研究活動の方向性	—	—	外部資金申請率100%を評価する。 「全教員が科学研究費補助金、その他の外部資金の申請及び獲得が円滑に出来るよう支援を行う」という目標について、実施状況から、双方とも大きな成果が挙がり高く評価される。さらに連携を深めて体系的な研究支援を行っていくことを期待する。また様々な方法で県内の看護職の研究能力アップに協力していることは評価できることであり、今後は、研究成果の発表を支援することについても期待したい。	○	○	
22102	研究成果の公表と還元	—	—	着実に計画を実施していると評価できる。			
22103	知的財産の活用	—	—	知的財産にかかる体制強化に積極的に努めていることは、評価できる。看工連携から継続、発展して特許出願、申請まで繋げていることは、社会の求めに応じていることで、今後に向けても評価できることである。		○	
22201	研究活動への支援	—	—	着実に計画を実施していると評価できる。			
22202	研究活動の評価と改善	—	—	着実に計画を実施していると評価できる。			
22301	研究倫理を堅持する体制	—	—	研究倫理審査体制を整理し、公平性で周知徹底できるように努力していることは評価できる。 平成30年9月には、「研究活動における不正行為の防止に係る研修会」を開き、「日本学術振興会が運営する「研究倫理eラーニングコース」の受講を促す努力を行うほか、平成31年2月には、国立研究開発法人日本医療研究開発機構によって行われた「倫理審査委員会養成研修」を受け、研究倫理審査の基本的な実践力を習得するため、委員(教員)を3名派遣するなどの努力を積んでおり高く評価される。 研究倫理に関するマニュアルや研究費執行について、いろいろな研修会をとおして周知徹底に努めているが、教職員が丸となって今後も最新の注意をはかっていかなくてはならない重要な内容であるので、引き続きの検討や研修を	○	○	

計 6項目

2項目

3項目

0項目

< I - 第3 地域貢献等に関する項目 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における 重点的な取組及び特 筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人 評価	委員会 評価			重点的な取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項等
23101	地域貢献機能の充実	IV	IV	<p>認定看護師教育課程「認知症看護」の開講とその修了生のフォローアップ、さらに県から受託事業である病院勤務の医療従事者及び看護職員の「認知症看護」への対応力を高める研修事業は、23101<地域貢献機能の充実>、23102<多様な主体との連携による地域貢献の推進>の二つの取組の双方に関わり、県内の保健・医療・福祉の向上に資する主要な内容となっている。それに加えて、県の受託事業である新人助産師、中堅層以上の助産師を対象とする卒業後研修事業を通じて、助産師実践能力の育成・向上支援を実施し、三重県の周産期医療の課題解決に資する取組にも継続的に従事している。</p> <p>また、看護研究の基礎講座、小人数による講習型のステップアップ講座といった段階的な集合研修を提供し、医療機関からの依頼を受け、研究指導に向くなど、看護職者の研究基礎能力・実践能力の向上を通して、三重県地域の看護活動の質的向上に取り組んでいる。</p> <p>ただし取組の内容については、昨年度とほぼ同様のものであり、新たな取組が見られない。特に三重県からの受託事業については、ここ数年、変化のないところである。さらに高い水準での地域貢献活動の実施を目指し、新たな取組についても検討を続けて欲しい。</p> <p>また県立看護大学でこのような優れた取組が実施されていることを一般の方にはあまり知られていないと感じられるため、教員が専門性を活かし、さまざまなことに取組んでおり評価される。</p>	○	○	
23102	多様な主体との連携による地域貢献の推進	IV	IV	<p>認定看護師教育課程(認知症看護)が専門実践教育訓練対象講座の指定を受けたことにより、研修生の受講環境の向上に繋がり、その成果が期待される。</p> <p>知的財産については専門家を招いてさらに活動が推進され、さらに「知的財産創出ネットワーク」に参画するなど前向きな活動ができている。</p>	○	○	
23103	地域住民等との交流の推進	IV	IV	<p>教員提案事業の中でも、地域住民と教員・学生の交流や地域住民同士の交流を目指す「地域住民とのふれあい推進事業」は、平成29年度の4件から平成30年度の9件に増加した。新規事業の「みかん大認知症カフェ」、「災害に備えて」、「シネマ倫理学」は、いずれも認知症看護、災害看護、生殖医療の倫理といった本学教員の専門性を活かした取組みであり、地域住民の健康づくりや防災・減災力の向上、医療・看護への関心を高める機会につながるものである。</p>		○	
23104	卒業生への継続的教育	IV	IV	<p>「卒業生への継続教育」は、平成29年に引き続き、卒業生の能力向上やキャリアアップ、復職活動などを通じて、県内の看護職者確保に資するために積極的に行われた。そのため、法人の地域交流センターと同窓会とのさまざまな交流活動が持たれた。たとえば、「卒業生きずなネットワーク事業」は卒業後1年目の人々と同窓会との「交流講演会」を大学祭(夢緑祭)と同日に開催し、同窓会役員が、卒業生の仕事上の悩み、進路、キャリアアップ等の相談窓口を開くなどして好評を得た。この取組の関連で合計4事業が平成30年度に実施されている。</p> <p>今後も同窓会との連携をさらに密にし、継続した取組を行っていただき、卒業生の離職防止等につながることを期待したい。</p>		○	
23201	国際交流の推進	IV	IV	<p>本学における国際交流の推進の実施状況等については、二つの特徴がある。</p> <p>第一は、実施に際して、本学新旧の教員の積極的協力が行われていることである。</p> <p>タイ王国マヒドン大学との間で長期間持続的に行われている国際交流に際しては、その国際看護実習Ⅰの事前学習において、両大学の交流の開始期に本学教員として実務にあたった現京都文教大学の教授が3時間講義を担当して学生の啓発に良好な影響を与えていることである。また、英国グラスゴー大学との交流に際しての国際看護実習Ⅱの事前学習は、本学の現職教員が担当し、成果を挙げている。</p> <p>第二は、両大学との国際交流が、これに参加する学生のみならず、参加しない学生を含む幅広い多くの学生に大きな影響をあたえていることである。</p> <p>国際看護実習に参加した学士は、実習後の報告会で、国内の外国籍の地域住民に対する支援に積極的に関わっていきたいなど今後の抱負を語るなど、国際看護実習Ⅱ参加していない学生とも様々な情報を共有している。また、海外短期研修の受け入れに際し、多くの学生が研修生の国の文化を知るきっかけとなっている。これらのことから、国際交流を継続的に行うことは、学生が国際的な視点を持ち、看護を実践する土台となっている。</p> <p>国際交流に関しては、これらの特徴的な活動が継続されており、高く評価される。</p>	○	○	
計	5項目				3項目	5項目	0項目

<Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する項目>

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における 重点的な取組及び特 筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人 評価	委員会 評価			重点的な取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項等
31101	効率的で機動的な組織運営体制の維持	Ⅳ	Ⅳ	理事会、経営協議会、教育研究審議会においては、「これらの会議の概要を教授会においても説明し、必要な情報の共有を図ることにより、全教職員が一丸となった法人及び大学運営につとめた」と総括されている。非常に素晴らしいことである。現在、国公立大学法人評価においては、理事長のリーダーシップのみが注目されているが、本学では、どのようにして理事長のリーダーシップを発揮できるかという点での工夫とともに、教授会構成員、及び教職員の大学の取組への関与がどのように行われているかが、上記のように述べられており、非常に感銘を受けた。 メディアコミュニケーションセンターの下部に位置づけられていた学生募集・入試関連ワーキンググループの機能をフルに活用するため、教授会に直属させたことも注目される。 「内部統制体制の整備に取り組む」という年度計画については、計画以上に進んでいると高く評価できる。	○	○	
31102	戦略的な法人運営の確立	Ⅳ	Ⅳ	法人の学長兼理事長が、合計93校に達する加盟校をもつ一般社団法人公立大学協会において、49校の加盟する看護・保健医療部会の部会長を務めている。同部会の過去2年間の共通課題は、(1)公立大学が地域に貢献している状況の可視化と主張の方法、(2)各自治体が抱える課題に対し、それぞれの地域の公立大学の担うべき役割を明確化し、存在感を高めることにある。従って、法人の学長兼理事長は、三重県立看護大学の地域貢献情報を全国に発信するとともに、全国の広汎な情報を収集・整理することが可能であり、戦略的な法人運営の確立にとって、非常に重要な役割をなし得る立場にあり、注目に値する。 今後も収集した情報を法人運営に活用できるよう取組を続けていただきたい。	○	○	
31103	内部監査の推進	Ⅲ	Ⅲ	内部監査の規定集の見直しと更新を行ったこと、また運用面でも報告体制の充実を図ったことは、評価できる。平成30年度は、「学生相談制度」を年度テーマとして選定しつつ、各分野にわたって、周到綿密な調査がなされており、注目に値する。 内部監査で要改善とした指摘事項については、改善の有効性の確認をお願いしたい。		○	
32101	適切な人材マネジメントの実施	Ⅲ	Ⅲ	教育活動計画表に自己評価欄を設けたことで、教員と上司の相互理解ができるようになった。今後も人事制度の適切な指導、運用を図っていただきたい。			
32102	教員の確保	Ⅲ	Ⅲ	研究者人材データベース・各大学ホームページを活用して、平成30年度は13件を公募し、17名の応募者があり、平成31年4月1日付けで10名を採用するという成果を挙げ、平成29年度に引き続いて優秀な教員を確保し、教員定員59名、現員52名、欠員7名という現状であることは、看護系の大学が毎年増加し、看護大学の人材が極端に不足しているわが国の状況から見て、評価される。ただ、欠員7名はなおも少ないとは言えず、引き続き努力をしていただきたい。 高大連携特任教授は、高等学校の教員経験者等を、担当授業科目の補完教育に従事するものとして現在非常勤2名を雇用している。地域連携特任教員は、地域貢献の分野において専任教員と同様の仕事に従事する者と位置づけ、本学の地域交流センターにおいて、教員2名が勤務しており、他に、業務職員(事務)を1名採用し、効率的に事務を運営している点も、評価に値する。	○	○	
32103	事務職員の確保	Ⅲ	Ⅲ	固有職員が増えつつあるので、是非早いうちから固有職員確保に伴う法人としての評価をいろいろな角度から並行して進めていっていただきたい。			
32201	教員の育成と能力向上	Ⅲ	Ⅲ	特に助手、助教は計画的な育成、ラダーに沿った育成が重要である。教授、准教授が中心となって責任をもって計画的な指導にあたっているかの評価も是非行っていただきたい。			

32202	事務職員の育成と能力向上	Ⅲ	Ⅲ	<p>今後も人事評価制度の適切な運用と事務局職員の人材育成の高度化を図っていただきたい。特に固有職員の人材育成は事務局全体の仕事を考えつつ、しっかりとした計画を立てそのもとの明確な人材育成を行っていただきたい。全体数の少ない事務職員のなかで4～5名の占める割合を考え、長期的な計画のもとでの人材育成を期待する。</p>		○	
32301	サービス制度の充実	Ⅲ	Ⅲ	<p>全国的に看護学部が増設が続くなか、教員勤務実態調査、教員・職員満足度アンケート、及び教職員ストレスチェックを継続的に実施し、これから抽出された課題等について解決に向けた活動を行うことが、サービス制度の充実を期す本取組のねらいであり、平成30年度においても着実に丁寧な実施され、自己評価されている。</p> <p>教員については、平成29年度と比べて、仕事の量的負荷、職場支援のストレス度が高くなり、特に40歳代の教員は量的負荷、職場支援のストレス度が高く、全国標準より高くなった。また、事務局正規職員の時間外勤務時間平均327時間は平成29年度の381時間に比べて縮減されたものの、依然として高い水準にあり、恒常的に忙しく、相談もできない、休暇も取れないことの一因となっている。</p> <p>「働き方改革」が求められている中、こうした現状がしっかりと把握されていることは、問題点とその打開への貴重な出発点として注意深く認識し、一歩進んだサービス制度の充実が図られることを期待する。</p> <p>全体として教員・職員満足度アンケートの結果、昨年比大きく改善された項目が多数あり、解決に向けた努力は評価できるが、昨年比、評点が下がった項目については、抜本的な対策、検討を図っていただきたい。</p>		○	
33101	適正な業務運営	Ⅳ	Ⅳ	<p>事務の簡素化、業務の効率化については今後も定期的な見直しを図っていただきたい。その際、新しい組織体制に変えたこと自体に対してではなく、作業内容がどのように改善されたかという観点で評価することが重要であるので、今後その点に注意しながら自己評価を実施していただくことを期待する。</p>		○	
計	10項目				2項目	7項目	0項目

<Ⅲ 財務内容の改善に関する項目>

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における 重点的な取組及び特 筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人 評価	委員会 評価			重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項等
41101	自己収入の確保	Ⅳ	Ⅳ	以前からの項目について、安定して収入が確保されたことは評価される。 看工連携については新規であるが、他の項目についてはあまり変化がないように思われる。公立大学法人として、実施できることは限られていると思うが、新たな収入源の確保に努め、今後も安定した自己収入が確保できるよう取組んでいただきたい。		○	
41102	外部資金の獲得	Ⅳ	Ⅳ	平成30年度外部研究資金申請率は、平成29年度に続いて100%であり、平成30年度科研費補助金新奇採択率は25・9%で、全国の大学の平均24.9%、公立大学の平均23.1%をそれぞれ上回った。 科研費以外の外部資金申請も5件であり、そのうち1件が採択され、1,140千円であった。積極的な外部資金の獲得に向けた取組について評価する。	○	○	
42101	経費の抑制	Ⅲ	Ⅲ	予算計上の精算、確認を行い教職員のコスト意識の向上と経費の抑制に努めていただきたい。			
43101	資産の適正管理	Ⅲ	Ⅲ	余裕金を、①本年度において執行見込みのない資金と、②一定期間余剰が見込まれる資金とに分類し、①については可能な限り長期で、②については資金収支計画に基づく期間において、地方銀行の定期預金として運用した。			
43102	資産の有効活用	Ⅲ	Ⅲ	平成28年度に本学と県内企業との看工連携による共同研究の成果を基に開発された製品(泡シャワー装置)が、平成31年3月に販売されるに至ったことは高く評価される。		○	

計 5項目

1項目

3項目

0項目

<IV 自己点検・評価および情報の提供に関する項目>

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における 重点的な取組及び特 筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人 評価	委員会 評価			重点的取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項等
51101	自己点検・自己評価 の充実	Ⅲ	Ⅲ				
52101	情報発信・情報公開 の推進	Ⅲ	Ⅲ	地元のテレビ局などをもっと積極的に活用して、県民に本学の取組をさらにPRされることを期待する。			○
52102	個人情報の保護	Ⅲ	Ⅲ	個人情報保護の重要性については、教職員学生に対して意識の維持向上に努めているが、対象者の入れ替わりによる周知漏れが発生しないよう情報保護の管理・教育を徹底していただきたい。		○	
計	3項目				0項目	1項目	1項目

<V その他業務運営に関する重要項目>

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における 重点的な取組及び特 筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人 評価	委員会 評価			重点的な取組及び 特筆すべき取組	評価に当たっての 意見、指摘事項等
61101	教育環境の整備	Ⅲ	Ⅲ				
61102	環境等への配慮	Ⅲ	Ⅲ				
62101	危機管理への対応	Ⅳ	Ⅳ	防犯体制の強化のため図書館に、緊急ボタン、駐輪場に防犯カメラの設置を行った。 安否確認の周知方法の見直しにより返信率が向上できたことは、高く評価できる。 返信がなかった学生に対しては、理由の分析を行い今後も、返信率の向上を目指していただきたい。		○	
63101	人権尊重の推進	Ⅲ	Ⅲ	今後もハラスメント防止のための研修会については、充実した取組を行っていただきたい。			
計	4項目				0項目	1項目	0項目